

# 誰でも東大の講義が受けられる！ 公開オンライン授業で変わる教育 ——「ムーク」というインパクト

日本版ムーク（大規模公開オンライン講座）が2014年春に始動することが報じられた。ムークは、これまでの価値観を転倒する「破壊的イノベーション」という見方がされるほど、教育界に与えるインパクトは大きい。にわかに注目を浴びる公開オンライン講座の可能性を探った。

## MITからはじまる

大学の講義は自宅で誰でも無料で視聴できる——。

最初に聞いたとき、随分驚かされた事実だが、実はかなり前から実施されてきた。大学の公開オンライン講座はどのように導入されてきたのか。明治大学 研究・知財戦略機構 特任教授で日本オープンコースウェア・コンソーシアム（JOCW）事務局長、またJMOOC事務局長を務める福原美三氏に解説をお願いした。

一番最初のきっかけを作ったのは、アメリカのマサチューセッツ工科大学（以下MIT）だ。2001年、MITは「在学生が単位取得を目的としている正規講義をインターネットで無償公開する」というオープンコースウェア（OCW）のコンセプトを発表した（図表1）。そして、2003年から500コースの講義の公開をはじめ、2007年までに当初の計画通り全コース（約1800）の公開を達成した。

同時にMITは、OCWのモデルを世界中に広めようと普及活動を展開した。日本では、2006年に日本オープンコースウェア・コンソーシアム（JOCW）が発足し、合計9大学の活動としてはじまった。同年には国際コンソーシアムも立ち上がった。現在、全世界で49か国が参加し、約25000コースが公開されている。日本では23大学が参加し、約3000コースが各大学のOCWのサイトで公開されている。ただこの数は決して多いとは言えない。日本はJOCWの発足は早かったが、OCWを重視する周辺のアジアの国々に追い抜かれていく状況にある。

## 福原教授は話す。

「韓国などは、国レベルで支援していますので、取り組みが広がっています。国が大学でOCWを実施することを強く推奨し、補助金もつけています。一方の日本は、財政支援が乏しいことがボトルネックとなって広まりが遅れています」

日本は、各大学の自助努力で



明治大学 研究・知財戦略機構 特任教授 / JOCW 事務局長 / JMOOC 事務局長  
福原美三氏

## 高等教育の機会を提供

OCWを最初に立ち上げたMITの狙いは何だったのか？

福原教授は説明する。「最初から、内向きではなく外向きでした。高等教育の機会に恵まれない人たちに、クオリティの高い高等教育教材を提供することが目的でした」

2011年にMITが提出したOCWに関するレポートがある。福原教授はそこから象徴的なエピソードを紹介する。

「OCWを使ってほしい高等教育に恵まれない国というのは情報インフラがきちんと整っていないケースが多い。特にアメリカの国々がそうです。そこでMITは、アフリカから来た留学生に1800科目全ての講義

## 進路選択のツールになる

一方、大学内でもさまざまな効果を生んでいる。

MITの在学生のOCW利用率は約8割。具体的にどのような目的で利用するかというと、受講科目を選択する際、シラバスを見るだけでなく、実際の講義映像を見て把握するのだ。また、授業を受けたあと、復習のために前年度の講義映像を見たり、関連する類似科目の講義映像を見て、自分の勉強を補完するという利用法もあるという。

## 教員も活用している。

「当初からOCWの目的の一つには、学内外の教員が講義を見ることによる教育の質の向上がありました。MITの教員の8割は自分の講義を良くするために同僚のコンテンツを使っています。あの素材は自分の講義でも使える、この教員の説明はいい、などというものを自分の講義にフィード

バックして、クオリティを高めることに役立っているのです」（福原教授）

その他、意外なところでは、

高校生の利用がある。「MITの新入生へのアンケートによると、40%弱が高校時代にOCWを見ていて、大学選択に強く影響していたことがわかりました。OCWの映像から講義の内容や教員の魅力などをつかみ、入学の動機にポジティブに影響していたということですね」（福原教授）

これを日本での大学進路選択の場面に当てはめてみると、似たようなツールとしてオープンキャンパスなどで行われる模擬講義がある。しかし、福原教授は、決定的な違いを指摘する。

「オープンキャンパスの模擬講義は、ある意味で着飾った状態で、応接間に通された感覚。一方のOCWは、普段の講義の臨場感があり、日常生活している「リビング」にいる感覚です」

## 魅力の一つである。

「素材を勉強するという意味に加え、高校生や留学生は、その大学を選ぶ基準として利用できます」（福原教授）

## 学習者管理のあるムーク

公開オンライン講義の新しいサービスとして2012年に登場したのが「MOOC（ムーク）」だ。英語圏や新興国で新たな学び方として爆発的に普及している。日本からは東大が参加を表明し、2013年9月から2講座が英語で配信された。

ムークは、米国型の事業主体（Coursera, Udacity, edX）が先行していたが、日本版ムークとして「JMOOC」（日本オープンオンライン教育推進協議会）が2014年春にスタートし、少なくとも13校の講義1つずつが日本語で配信される予定だ（図表2）。

福原教授は、ムークとOCWの違いを、「学習者管理にある」と説明する。

図表1 オープンコースウェア(OCW)の歴史

2001年	MITがOCWのコンセプトを発表
2003年	MITが本格的にOCWを開始(当初500コース)
2005年	日本でのOCW開始(6大学:東大、東工大、京大、大阪大、早稲田大、慶應義塾大)
2006年	国際コンソーシアム発足(MIT内組織)、JOCW発足(9大学:北海道大、東大、東工大、名古屋大、京大、大阪大、九州大、早稲田大、慶應義塾大)
2007年	MITが当初の計画どおり、全コース(1800)公開を達成
2008年	国際コンソーシアムが独立したNPOに
2013年	49か国、277組織から約25000科目が公開

図表2 JMOOC 2014 年度開講予定講義

大阪大学 狩野裕教授	統計学・データ分析
九州大学 井上仁准教授	コンピュータサイエンス
京都大学	(選定中)
慶應義塾大学 村井純教授	インターネット
国際教養大学 ダレン・J・アシュモア准教授	日本研究
東京大学 本郷和人教授	歴史学
広島大学 安武公一講師	経済・金融
文化学園 複数の教員による	文化と服飾の歴史
放送大学 山田恒夫教授+(国際交流基金)	教育・社会系心理学
北海道大学 重田勝介准教授	教育工学
明治大学 森川嘉一郎准教授	サブカルチャー論
立命館大学 矢野桂司教授	GISを用いた都市システム
早稲田大学 栗崎周平准教授	国際安全保障論

「単純に教育のクオリティでいえば、反転授業を活用したほうが効果があるということは誰でも理

「日本の学生のライフスタイルには合わない。しかし、だからといって反転授業に手をつけな

「反転授業など積極的に取り入れて学生の評価を得て、偏差値の向上にもつなげ、よりよい学生を集める好循環のスパイラルで上昇していく大学は出てくるかもしれません。一方、大

「OCWは、学習者側に一切の負荷をかけません。事前登録の必要はなく、宿題や試験もなく、誰でも自由意志で見ることができます。しかしムークの場合、最初に登録してもらい、深いレベルの学習者管理を行います。具体的には、登録者が1週間以内に課題をクリアしなければ減点になるか、次の回に進めない仕組みになっています。一方で、定められた期間に課題をクリアし、最終試験にも合格すると、修了証を受け取ることができます」

「一定のクオリティを担保したコースに関しては、大学の単位と同等と見なしてあげよう、というケースが増えてきていま

「反転授業は指摘する。福原教授は指摘する。一方、学生の問題もあると

「反転授業など積極的に取り入れて学生の評価を得て、偏差値の向上にもつなげ、よりよい学生を集める好循環のスパイラルで上昇していく大学は出てくるかもしれません。一方、大

「OCWは基本的に大学の講義そのものを提供しますが、ムークはムークのコースとして、正規科目とは切り離して設計されている」と福原教授は言う。今のところムークに対する最大の批判点は、1割という低い修了証の取得率にある。しかし福原教授は反論を唱える。「9割が最後まで到達できな

「反転授業は自宅での一定の学習時間を要求します。アメリカの大学生は一定の時間を勉強にあてているので、単に中身を

「反転授業など積極的に取り入れて学生の評価を得て、偏差値の向上にもつなげ、よりよい学生を集める好循環のスパイラルで上昇していく大学は出てくるかもしれません。一方、大

「反転授業など積極的に取り入れて学生の評価を得て、偏差値の向上にもつなげ、よりよい学生を集める好循環のスパイラルで上昇していく大学は出てくるかもしれません。一方、大

「OCWは基本的に大学の講義そのものを提供しますが、ムークはムークのコースとして、正規科目とは切り離して設計されている」と福原教授は言う。今のところムークに対する最大の批判点は、1割という低い修了証の取得率にある。しかし福原教授は反論を唱える。「9割が最後まで到達できな

「反転授業は自宅での一定の学習時間を要求します。アメリカの大学生は一定の時間を勉強にあてているので、単に中身を

「反転授業など積極的に取り入れて学生の評価を得て、偏差値の向上にもつなげ、よりよい学生を集める好循環のスパイラルで上昇していく大学は出てくるかもしれません。一方、大

「反転授業など積極的に取り入れて学生の評価を得て、偏差値の向上にもつなげ、よりよい学生を集める好循環のスパイラルで上昇していく大学は出てくるかもしれません。一方、大

「OCWは、学習者側に一切の負荷をかけません。事前登録の必要はなく、宿題や試験もなく、誰でも自由意志で見ることができます。しかしムークの場合、最初に登録してもらい、深いレベルの学習者管理を行います。具体的には、登録者が1週間以内に課題をクリアしなければ減点になるか、次の回に進めない仕組みになっています。一方で、定められた期間に課題をクリアし、最終試験にも合格すると、修了証を受け取ることができます」

「反転授業は自宅での一定の学習時間を要求します。アメリカの大学生は一定の時間を勉強にあてているので、単に中身を

「反転授業など積極的に取り入れて学生の評価を得て、偏差値の向上にもつなげ、よりよい学生を集める好循環のスパイラルで上昇していく大学は出てくるかもしれません。一方、大

「反転授業など積極的に取り入れて学生の評価を得て、偏差値の向上にもつなげ、よりよい学生を集める好循環のスパイラルで上昇していく大学は出てくるかもしれません。一方、大